

# スプレッド負け計算ツール

## 使い方マニュアル

### このPDFでわかること

入力項目の意味、計算結果の読み方、スプレッド負けを避ける判断基準、SEO記事内での使い方をまとめています。

対象ツール	スプレッド負け計算ツール
主な用途	取引コスト・月間コスト・損益分岐勝率の確認
推奨利用場面	スキャルピング、デイトレード、海外FX業者比較記事
注意事項	教育目的の概算ツールであり、投資助言ではありません

Version 1.0 / White Background Edition

作成日: 2026年6月25日

# 1. ツールの目的

スプレッド負け計算ツールは、スプレッド・滑り・往復手数料を合計し、1回の取引や月間でどれだけコストが発生しているかを可視化するツールです。特に短期売買では、方向性が合ってもコストが重いだけで利益が残りにくくなります。

## 結論

利確幅が小さいほど、スプレッド・滑り・手数料の影響は大きくなります。スキャルピングでは「勝率」だけでなく、コスト込みの損益分岐勝率を見ることが重要です。

# 2. このツールで計算できること

- 1回あたりの実質コスト
- スプレッドだけのコスト
- 損益分岐に必要な pips
- 利確幅に対するコスト負担率
- 月間スプレッドコスト
- 月間コストの口座残高比率
- コスト込み損益分岐勝率
- コスト危険度スコア

# 3. 入力項目の説明

入力項目	意味・使い方
口座残高 (円)	現在の口座残高または有効証拠金。月間コストが資金の何%かを見るために使用します。
銘柄テンプレート	USDJPY、EURUSD、GBPJPY、XAUUSD、BTCUSD などの概算設定を自動入力します。
1pipsの損益 (1ロット・円)	1ロットで1pips動いた時の損益。業者や銘柄によって異なります。
ロット数	1回の取引で入るロット数。コストはロット数に比例します。
スプレッド (pips)	買値と売値の差。取引開始時点で実質的なコストになります。
滑り・余裕分 (pips)	約定滑り、スプレッド急変、決済時の不利分を見込むための余裕です。
往復手数料 (1ロット・円)	ゼロ口座や ECN 口座などで発生する取引手数料を円換算で入力します。
目標利確幅 (pips)	1回の取引で狙う利益幅。コスト負担率の計算に使います。
損切り幅 (pips)	1回の損切り幅。損益分岐勝率の計算に使います。
1日の取引回数	1日に何回取引するか。月間コストの計算に使います。
月の取引日数	月に何日取引するか。月間コストの計算に使います。
スプレッド状態	通常、やや広い、広い、指標・早朝レベルから選び、危険度スコアに反映します。

## 4. 計算結果の見方

結果項目	読み方
1回あたり実質コスト	スプレッド、滑り、往復手数料を合計した1取引あたりの負担額です。
スプレッドだけのコスト	スプレッド部分だけを円換算した金額です。
損益分岐に必要な pips	取引開始時点のコストを取り戻すために必要な値幅です。
コスト負担率	実質コストが目標利確幅に対して何%かを示します。
月間コスト	1回あたりコスト × 1日の取引回数 × 月の取引日数です。
月間コスト/口座残高	月間コストが口座残高に対して何%かを示します。
コスト込み損益分岐勝率	コスト込みでトントンにするために必要な勝率です。
コスト危険度	コスト負担率、損益分岐勝率、月間コスト、スプレッド状態から0～100点で表示します。

## 5. 主な計算式

項目	計算式
スプレッドコスト	スプレッド pips × 1pips 損益 × ロット数
滑りコスト	滑り pips × 1pips 損益 × ロット数
手数料コスト	往復手数料 × ロット数
1回あたり実質コスト	スプレッドコスト + 滑りコスト + 手数料コスト
損益分岐 pips	スプレッド pips + 滑り pips + 手数料 pips 換算
コスト負担率	1回あたり実質コスト ÷ 目標利確額 × 100
月間コスト	1回あたり実質コスト × 1日の取引回数 × 月の取引日数
損益分岐勝率	損失額 ÷ (利益額 + 損失額) × 100

### 重要ポイント

損益分岐勝率は、利確幅と損切り幅だけでなく、スプレッド・滑り・手数料を含めて見る必要があります。コストを入れると、必要勝率は想像以上に上がります。

## 6. 判定基準の目安

コスト負担率	判定	目安
10%未満	低め	目標利確幅に対してコストは比較的軽い状態です。
10～20%	注意	スキャルでは勝率・約定条件の影響が出やすい状態です。
20～35%	高コスト	利確幅が狭い、またはスプレッドが広すぎる可能性があります。
35%以上	危険	スプレッド負けしやすく、見送りや条件変更を検討する水準です。

## 7. 使い方の手順

1. 口座残高を入力します。例: 100,000 円。
2. 銘柄テンプレートを選びます。例: USDJPY、XAUUSD など。
3. 1pips の損益とロット数を確認します。実際の業者仕様と違う場合は手入力で修正します。
4. 現在のスプレッド、想定滑り、往復手数料を入力します。
5. 目標利確幅と損切り幅を入力します。
6. 1日の取引回数と月の取引日数を入力します。
7. スプレッド状態を選び、「スプレッド負けを計算する」を押します。
8. 結果の「コスト負担率」と「損益分岐勝率」を見て、取引条件を見直します。

## 8. 具体例: USDJPY スキャルピング

条件	入力例
口座残高	100,000 円
銘柄	USDJPY
1pips 損益	1 ロットあたり 1,000 円
ロット数	0.10 lot
スプレッド	1.0 pips
滑り・余裕分	0.5 pips
往復手数料	0 円
目標利確幅	10 pips
損切り幅	10 pips
取引回数	1 日 5 回 × 月 20 日

計算結果	目安
スプレッドコスト	100 円
滑りコスト	50 円
1回あたり実質コスト	150 円
損益分岐に必要な pips	1.5 pips
コスト負担率	15.0%
月間コスト	15,000 円
月間コスト/口座残高	15.0%
コスト込み損益分岐勝率	57.5%以上

### 読み取り方

この例では、1回のコストは小さく見えても、月 100 回取引すると 15,000 円になります。口座残高 10 万円なら月 15%相当のコストなので、取引回数を減らす、スプレッドが狭い時間帯だけ狙う、利確幅を広げるなどの対策が必要です。

## 9. スプレッド負けを減らす改善パターン

改善策	内容
利確幅を広げる	目標利確が5pipsから10pipsになるだけで、コスト負担率は大きく下がります。
取引時間を絞る	早朝、ロールオーバー、重要指標前後、急騰急落直後は避けます。
Spread 赤を避ける	スプレッドが通常より広いときは見送り、縮小後の2波目を待ちます。
取引回数を減らす	勝てる形だけに絞ることで、月間コストを直接減らせます。
低スプレッド口座を使う	スキャルピングでは口座タイプの違いが期待値に直結します。
滑りを見込む	実戦では理論値より不利約定になることがあるため、余裕分を入れます。
ロットを上げすぎない	コストはロットに比例します。連敗時のロット上げは避けます。

## 10. SEO 記事での使い方

このツールは、単体ページとして公開するだけでなく、海外FXのスプレッド比較記事、スキャルピング解説記事、業者レビュー記事の中に埋め込むと効果的です。

- 記事タイトル例: 「海外FX スプレッド負け計算ツール | 1回の取引コストと損益分岐勝率を自動計算」
- 導入文では「スプレッドは見えにくいコスト」と説明し、ツール入力へ誘導します。
- 結果下には、低スプレッド業者比較、スキャルピング向け口座、ゴールド取引のコスト比較へ内部リンクを置きます。
- FAQを追加し、「スプレッド負けとは?」「何 pips 以上なら不利?」「スキャルピングでは何を見るべき?」などの検索意図を拾います。

### おすすめ内部リンク

「海外FX スプレッド比較」「スキャルピングにおすすめの海外FX業者」「ゴールド/XAUUSD スプレッド比較」「ハイレバ危険度診断ツール」へリンクすると、サイト内回遊を作りやすくなります。

## 11. WordPress への設置手順

- WordPress 管理画面で新規固定ページまたは記事を作成します。
- ブロックエディタで「カスタム HTML」ブロックを追加します。
- スプレッド負け計算ツールの HTML コードを貼り付けます。
- プレビューで入力欄、計算ボタン、結果表示が動くか確認します。
- スマホ表示で横幅が崩れていないか確認します。
- 公開後、Search Console でインデックス登録をリクエストします。

### 設置時の注意

WordPress テーマやセキュリティプラグインによっては script タグが削除される場合があります。その場合は、固定ページテンプレート、Code Snippets、またはテーマ側で JS を読み込む方法を検討してください。

## 12. よくある質問

質問	回答
Q. スプレッド負けとは何ですか？	A. 取引方向が大きく間違っていないまでも、スプレッド・手数料・滑りのコストが重く、利益が残りにくい状態です。
Q. コスト負担率は何%までが目安ですか？	A. 短期売買では10%未満が理想、10~20%は注意、20%以上は条件見直しの目安です。
Q. スキャルピングでは何を一番見るべきですか？	A. 目標利確幅に対する実質コストと、コスト込み損益分岐勝率です。
Q. 手数料ゼロなら有利ですか？	A. 必ずしも有利とは限りません。手数料ゼロでもスプレッドが広い場合、実質コストは高くなります。
Q. 指標前後はなぜ危険ですか？	A. スプレッド拡大、約定滑り、ヒゲ戻しが起きやすく、通常より実質コストが増えやすいからです。
Q. ゴールドや仮想通貨CFDでも使えますか？	A. 使えます。ただし、pips定義や1pips損益が業者・銘柄によって異なるため、必ず実際の仕様に合わせて入力してください。

## 13. 公開ページに入れる注意書き

### 注意書きテンプレート

このツールは教育目的の概算計算です。実際のスプレッド、pips定義、契約サイズ、往復手数料、約定滑りは業者・口座タイプ・銘柄・時間帯によって異なります。表示結果は将来の利益や損失を保証するものではなく、投資助言ではありません。

## 14. まとめ

- スプレッド負けを避けるには、勝率だけでなくコスト込みの損益分岐勝率を見ることが重要です。
- 目標利確幅が小さいほど、スプレッド・滑り・手数料の影響は大きくなります。
- 月間コストを見ると、取引回数の多さが資金に与える影響がわかります。
- Spread 赤、指標前後、早朝、急騰急落直後は見送りを優先しましょう。
- SEO記事では、ツールの下に関連する業者比較・スプレッド比較・スキャルピング記事への内部リンクを設置すると効果的です。